

Green Brave

#52 Green Brave GR Supra GT



Round.3

SUPER GT MALAYSIA FESTIVAL 2025

2025年6月26日(木) ~ 28日(土) セパン国際サーキット (マレーシア)

■ 力強いペースでレース前半トップを走るも悔しい 2 位 ■

第3戦は Green Brave にとって6年ぶりの海外ラウンド。マレーシアのクアラルンプール郊外にある、セパン国際サーキットが戦いの舞台です。

決勝は土曜日の夕方に行われる300kmのナイトレース。木曜日の公式練習はドライで行われ、同一のタイヤのまま、吉田選手、野中選手の順に走行します。ベストタイムは吉田選手がマークした2分04秒933で、順位は11位です。金曜日引き続きドライ。新品タイヤを投入し、野中選手、吉田選手の順に走行。ベストタイムは野中選手が8周目にマークした2分03秒962で、順位は6位。坂戸で実施したベースのセッティングがマッチしている上に、新しいエアロパッケージが効果を発揮。GR Supra は高いパフォーマンスを発揮しています。

金曜日のノックアウト予選(Q1)はA、Bの2組に分かれて行われ、Green Brave は強豪が集まるA組に出場。ドライバーは野中選手です。野中選手は少し間隔を開けてからコースイン。4周目に午前中のタイムを大きく上回る2分03秒474をマークし、堂々の3位でQ1を突破しました。Q2では野中選手のアドバイスをもとに足まわりの調整を行い、吉田選手がコースイン。3周目に2分02秒475の好タイムをマークし、チームの期待に応える予選2位を獲得しました。

土曜日の天候は曇り。チームはスタートドライバーに野中選手を起用。レースの展開を読みながら適切なタイミングでタイヤ交換を行い、吉田選手につなぐ作戦です。決勝は16時38分から行われ、野中選手は予選1位のトップ、#18メルセデスに続いて1コーナーへ。背後にピタリとつけており、後半セクションで鮮やかに抜き去ります。野中選手は0秒219のリードを築いて1周目を終了。#18メルセデスの後ろには#0ランボルギーニがつけており、2台が競り合う間にリードを築いていきます。ロングのペースに自信を持っている野中選手はトップを快走。#18メルセデスとの差は5周目に4秒、10周目に8秒、16周目には9秒5まで拡大します。レースの3分の1を消化し、ピットインを行うクルマが現れる中、野中選手はリードを保ったままステイ。25周目にピットインを行います。吉田選手に交代し、店舗メカニックが給油とタイヤ4本交換を実施。しかし、ピット作業で10秒以上のロス。翌周にピットインを行った#18メルセデスがトップに立ちます。吉田選手は当初10秒以上あったギャップをみるみるうちに短縮。37周終了時には4秒942差まで接近します。ところが、その後は周回遅れのクルマを抜きあぐねる展開が続き、#18メルセデスとの差が拡大。吉田選手はあきらめることなくトップを追いますが、残りの周回数はわずかで、前に出られるかどうか微妙な状況です。それでも吉田選手は猛プッシュ。終盤、一気に差が詰まり、1秒差まで接近したところでチェッカー。今季初優勝こそ達成できなかったものの、2位表彰台を獲得し、復調を印象づける大会となりました。



決勝結果 (GT300クラス)

#52 Green Brave GR Supra GT
(吉田広樹/野中誠太)

決勝：2位

(51周、1時間49分02秒956)

予選：2位 (Q2：2分02秒475)



DRIVERS VOICE



吉田広樹 選手

予選後：予選後：誠太のフィーリングをもとに、Q2に向けてクルマをアジャストしたのが良かったと思います。未知数のサーキットの割に戦える位置につけることができました。昨日の走り出しの時には考えられなかったですが、ちょっとずついるんな要素を組み合わせて、あの順位に行けたと思います。優勝したい気持ちがありますが、速さはあるのに結果に結びつかないレースが続いています。みんなモヤモヤしている部分があるので、しっかり自分たちの力、速さを出した上で優勝ができればいいし、落ち着いたレースができればと思います。

決勝後：タイヤが良い時に自分のペースでしっかり走りたと思っていたのですが、周回遅れになるはずのクルマが前に出てきてしまいました。ちょっともったいなかったです。クルマのバランスは想定内だったので、それなりのペースで走っていました。もう少し周回があればという思いと、周回遅れでロスした時間が大事になるだろうと思っていたので、1秒、2秒をすごく大切に走っていました。チェッカーを受けた時、1秒ぐらいの差だったので、もったいなかったですが、やれることを精一杯やったので、受け止めて今後活かすしかないと思います。



野中誠太 選手

予選後：初めてのGTセパンでしたが、フロントロウで予選を終えられました。練習時と違うタイヤでのアタックとなり、ぶっつけ本番だったのですが、うまくはまり、2周連続でアタックすることができました。ぼくの世代では初めてセパンを走るドライバーが多かったと思うのですが、GT3やGT4など、他の車両でここを走ったことがあり、アドバンテージになったと思います。今年の決勝はうまくいかないことが多いので、リスクを背負わずに走り切れれば良い結果につながると思います。しっかり落ちていて頑張りたいと思います。

決勝後：ロングランのペースが良いのは練習時からわかっていたので、自信を持って1周目にのぞみ、相手の隙を見つけてオーバーテイクできました。その後のペースは良く、もともとタイヤも交換する予定だったので、プッシュして、後ろを引き離すというところではうまくいったと思います。今回のレースはなんとも受け止めづらいですが、自分の仕事を毎回しっかりと出し切ることが大事だと思うので、結果は残念でしたが、自分のパフォーマンスには満足しています。次回も自分のパフォーマンスを最大限発揮できるようにまた準備していきたいです。

GT300 クラス決勝結果

順位	No.	車名(車両)	周回数
1位	18	URGARAGE AMG GT3 (メルセデス AMG GT3)	51周
2位	52	Green Brave GR Supra GT (トヨタ GR Supra)	51周
3位	4	グッドスマイル初音ミク AMG (メルセデス AMG GT3)	51周
4位	0	VENTENY ランボルギーニ GT3 (ランボルギーニ ウラカン GT3 EVO2)	51周
5位	2	HYPER WATER INGING GR86 GT (トヨタ GR86)	51周
6位	777	D'station Vantage GT3 (アストンマーティン ヴァンテージ GT3 EVO)	51周

天候：曇 路面：ドライ トップ6まで (出走 19台)

GT300 クラス チームランキング

順位	No.	チーム名	ポイント
1位	65	K2 R&D LEON RACING	54
2位	4	GOODSMILE RACING & Team UKYO	45
3位	2	HYPER WATER Racing INGING	42
4位	56	KONDO RACING	40
5位	777	D'station Racing	37
6位	6	VELOREX	34
12位	52	埼玉 Green Brave	24

トップ6まで

PARTNERS



Driving Mobile Media Innovation

アルパインマーケティング株式会社



株式会社アルシエ



株式会社 FM NACK5



小倉クラッチ株式会社



株式会社カーグラス・JP



株式会社カロッツェリアジャパン



埼群スリーボンド株式会社



株式会社セーフティライフ



大和ラヂエーター工業株式会社



株式会社 TAN-EI-SYA WHEEL SUPPLY



ティーズ・ワークス



東京麒麟ビバレッジサービス株式会社



BP カストロール株式会社



株式会社プロモーション



マックメカニクスツールズ株式会社



丸和工業株式会社



Mechanix Wear LLC



株式会社 REIZ

第4戦 8月2日~3日
富士スピードウェイ